

橋に生きた顔

大日本コンサルタント(株) 執行役員北陸支社長 土井 朗さん

「今後の公共投資への期待も
ありますが、使い続けていく時
代のニーズである、社会資本の
維持管理という点でも、橋梁は
やはりアセットマネジメントな
どによる補修・補強分野が事業
の力点になってきています」

平成17年7月から北陸支社長
の任にある。会社前身の発祥の
地。「大きな河川を抱え、橋で
は歴史を有する富山県の橋守で
ありたいと思っています」。

最近でも建設中の富山大橋



富山の橋守を意識

(県管理)や、銅・コンクリート
複合アーチ橋の庵谷橋(直轄)な
ど数々の実績を積んでおり、旧
運輸省の複合斜張橋・新湊大橋
(建設中)の設計も受託した。

「実績の少ない港湾関連分野
において、プロポーザル方式で
当社の技術実績が評価されたら
いうことで、一步踏み出せたと
思っていますが、まだまだです」

ただ、道路特定財源の一般財
源化も閣議決定され、「新設橋
ばかり追って行くわけにはいき
ません」。実際、前年度の支社に
おける橋梁事業の売上7割は
補修・補強関連になっているも
の、現状のままでは経営に大
きく寄与するのは難しい。

「それにはいい成果品を出
し、適正価格をお願いする努力
をしていく以外ありません」

本社道路事業部副事業部長・
東京支社道路部長から現職。道
路畑が長く、以前の北陸支社勤
務中には、昭和58年から5、6
年を要した能越自動車道などの
路線計画も担当した。

「100キロの能越自動車道では、
長さ10キロぐらいの図面に乗り、
ICや橋、トンネルの位置を落
としていきました。正に地図を
描き変える設計です。留意すべ
きコントロールポイントはI
C、眺望、経済性、環境、文化
財の有無などです。ほかにも日
浴道、中部縦貫なども経験、「道
路設計は整理学」と強調する。
お酒は飲めず、趣味は月に1
度ぐらいのゴルフ。

日本大学理工学部土木工学科
卒。富山市出身。53歳。

(川端哲郎)